現代行動科学会誌　第38号，11－20（2022）

【論文】

若者のマッチングアプリ利用と恋愛・結婚観

大坂　瑞貴

Ⅰ　問題と目的

第15回出生動向基本調査(2017)の結果によれば、18～34歳未婚者において「交際している異性はいない」と回答した割合は男性で69.8%(前回61.4%)、女性で59.1%(前回49.5%)と、いずれも前回から上昇した。また、山田・白河(2008)によれば、あらゆる分野で「自由化」「規制緩和」が進み、それが男女交際にも起こったため、1975年頃から20代・30代の未婚率、50歳での未婚率を意味する生涯未婚率が上昇している。そして「個人が、意識的に結婚活動を行わないと、よい結婚相手どころか、結婚自体をすることがむずかしい時代に突入している」と述べている(山田・白河,2008:14-15)。このようなことから、統計的に見ていわゆる「若者の恋愛離れ」「未婚化・非婚化」が進んでいると言える。

一方、第15回出生動向基本調査では、「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者は9割弱で推移しており、依然として高い水準にあるという結果も示されている。

こうした若者の恋人探し活動(以下、恋活)や結婚活動(以下、婚活)を支援すべく、異性を紹介するマッチングサービス・アプリ(以下、マッチングアプリ)がスマートフォンの普及とともに多数リリースされている。

マッチングアプリに関しては、マーケティング目的でのアンケートが行われたり、各運営会社においてビッグデータの解析がされているが、学術目的での研究はまだ多くはない。そこで本研究では、マッチングアプリの利用実態を明らかにし、アプリ上での出会いの場面に着目して、社会学的視点から現代の若者の恋愛・結婚観を考察していきたい。

Ⅱ　マッチングアプリの概要

マッチングアプリにはビジネスやレクリエーション目的のものなど多様な種類があるが、本研究で扱うものは、「恋人や結婚相手を探すための出会いの場を提供するスマートフォンおよびPCのアプリケーション」と定義する。

MMD研究所(2020)の調査で「利用したことがあるマッチングサービス・アプリ」上位4位となったマッチングアプリ（Pairs、タップル、with、Omiai）の利用方法は、検索項目や機能の名称は多少異なるが、4社のアプリでは概ね①検索等で相手を探す、②気になる相手に“いいね”（タップルは“いいかも”）を送る、③相手が許可すればマッチングが成立しメッセージ交換ができる（もしくは相手から来た“いいね”を許可してマッチング成立)、という流れであった（各アプリのホームページにて確認)。また、利用者の検索に任せるだけでなく、おすすめのお相手の表示や相性診断などマッチング成立しやすくするサービス、新型コロナウイルス感染対策としてビデオ通話機能追加といった取り組みも各アプリで行われている。

Ⅲ　先行研究

恋愛・結婚観については多様なテーマ設定が可能だが、本研究ではマッチングアプリ上でも行われる「出会いの場面でどのような相手を選ぶか」という面を取り上げたい。

第 15 回出生動向基本調査における独身者調査の結果概要によれば、結婚する意思のある 18～34 歳未婚者が結婚相手に求める条件として最も考慮・重視するのは「人柄」、次いで「家事・育児の能力」、「自分の仕事への理解」となっている。また、「容姿」や「共通の趣味」も男女ともに考慮・重視する割合が高いが、女性では「経済力」、「職業」も男性に比べ高くなっている。しかし、近年では男性でも「経済力」、「職業」を考慮・重視する割合が増加している。

小林・森川(2017)が行った岩手大学生を対象としたアンケート調査で、恋愛相手を決める際に何を重視するか尋ねた質問では、性格と価値観が圧倒的に多い結果となり、結婚相手を決める際に関しても同様の結果となった。また、ルックスを重視すると回答した人が、結婚相手に関しては 0 人であったことが興味深い点として挙げられている。

「Pairs」を運営する株式会社エウレカは、山田昌弘の監修のもと「日本の恋愛・結婚に関する全国意識調査(2019)」を行っている。既婚者が結婚相手を選ぶ際に重視した度合いについて、男性では「相手の人柄」「愛情」「自分を大切にしてくれること」「会話が合うかどうか」が 3 割以上と高かった。一方、女性では「相手の人柄」「自分を大切にしてくれること」「愛情」「ありのままの自分を受け入れてくれること」「会話が合うかどうか」「人生観、価値観の一致」「金銭感覚」が 4 割以上と高かった。

しかし、上記の量的調査は、異性との“出会い”の場面に特化しているわけではない。山田・白河（2008:144、156）は結婚情報サービスサイトにおいて「写真はやはり重要です」「女性は、イケメンや年収がいい人だけでなく、外見に「いい人感」を醸し出している人を鋭く見つけます」と指摘している他、男性のための「花婿学校」を取材し、「中身を見てもらう前にパッケージが悪すぎて、入り口を入れない人が非常に多い」と述べている。また小澤・山田（2010:72-73）は結婚相談所の仲人の語りを分析し、「見合いだからと言って、生活できれば誰でもよいというわけではない。あくまで、恋愛感情が芽生えなければ交際に進展しないケースが多い」「こちらがいいと思って紹介しても、女性側が見合いにこぎつける以前に断るケースも多い。とにかく、男性は経済力＋外見＋コミュニケーション能力がそろっていないと見合いという土俵にのせてもらえないケースも多い。」と述べている。結婚情報サービスサイト等に比べてマッチングアプリは結婚を目的に利用している人は少ないと想定されるが、小澤・山田の研究にあるように見合いでも恋愛感情を求めるならば利用者の意識に類似点も多いのではないだろうか。マッチングアプリは大勢の人と出会える一方、気に入らなければ指一本で簡単に弾かれてしまうため、山田・白河の言う「パッケージ」の重要性がさらに高まっていると推測される。いくらアプリが多数リリースされ、様々な機能が充実していても「入り口」を突破しなければ、若者の恋活・婚活は困難を極めるだろう。そこで本研究ではマッチングアプリでの“出会い”の場面に特化し、相手のプロフィールで重視することを調査したい。

Ⅳ　アンケートによる調査

１．調査目的

若者のマッチングアプリの利用状況、利用する上での意識、プロフィール項目で重視するものを明らかにする。

２．調査の概要

(1)対象者：18～34 歳の独身男女、(2)調査方法：ＷＥＢ調査、(3)調査期間：2021 年 12 月 1 日～2022 年 1 月 15 日、(4)有効回答率：93.1%　(回収数：87　有効回答数：81)

３．調査結果

(1) 回答者の属性

回答者の属性は表 1、2 の通りの集計結果であった。

表 1　回答者の年齢

18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	無回答	総計
1人	13人	57人	9人	1人	81人
1.2%	16.0%	70.4%	11.1%	1.2%	100.0%

表 2　回答者の性別

男	女	無回答	総計
28人	52人	1人	81人
34.6%	64.2%	1.2%	100.0%

(2) マッチングアプリの利用状況

まず、本調査の回答者におけるマッチングアプリの位置づけや利用方法を確認するため、アプリ利用状況に関して質問した結果を掲載する。

表 3　マッチングアプリの利用経験

あり	なし	総計
33人	48人	81人
40.7%	59.3%	100.0%

回答者 81 人のうち、マッチングアプリの利用経験がある人は 33 人(表 3)となった。

マッチングアプリ以外にしたことがある交際相手・結婚相手を見つける活動（複数回答）は、最も多かった「友人に紹介してもらう」でも 25 人であり、マッチングアプリより少なくなっている(図 1)。この設問は 20～60 代を対象とした「日本の恋愛・結婚に関する全国意識調査(2019)」を元にしているが、この先行研究では「友人に紹介してもらう」がマッチングアプリより上位になっていた。若い世代に対象者を絞った本調査ではマッチングアプリが恋活・婚活手段として有力視されている傾向がみられた。

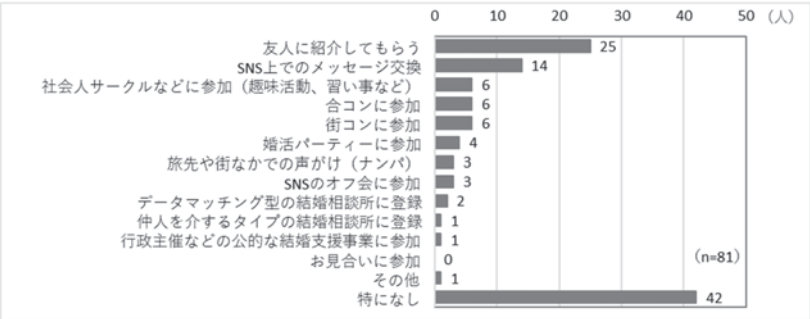

図 1 マッチングアプリ以外にしたことがある交際相手・結婚相手を見つける活動

マッチングアプリ利用経験者の利用目的としては、「恋人を見つけるため」が 18 人と最も多く、以下「興味本位」7 人、「遊び目的」4 人、「結婚相手を見つけるため」「その他」が各 2 人となった。また、「恋人を見つけるため」「結婚相手を見つけるため」と回答した人が、その目的を達成するためにどのくらい真剣に利用しているか（していたか）については表 4 の通り、「とても真剣」3 人、「まあ真剣」12 人となり、“恋人や結婚相手を見つ

けるため真剣にマッチングアプリを利用している（していた）人”は利用経験者のうち 15 人（45.5%）であった。

表 4　マッチングアプリをどのくらい真剣に利用しているか

とても真剣	まあ真剣	さほど 真剣ではない	まったく 真剣ではない	総計
3人	12人	4人	1人	20人
15.0%	60.0%	20.0%	5.0%	100.0%

利用したことがあるマッチングアプリ（複数回答）は「Pairs」が 20 人と最も多かった。

「おすすめのお相手」が表示されたり、相性診断ができる等の機能を、お相手を探すうえで活用しているか（していたか）については、「活用している」＋「時々活用している」が 18 人と、半数以上の人が活用している（していた）ことが分かった。

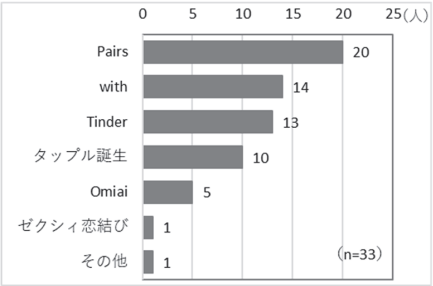

図 2　利用したことがあるマッチングアプリ

表 5　おすすめや相性診断の機能の活用状況

活用している	時々 活用している	あまり 活用していない	活用していない	機能がない	総計
10人	8人	8人	2人	5人	33人
30.3%	24.2%	24.2%	6.1%	15.2%	100.0%

マッチングアプリ非利用経験者の利用したことがない理由（複数回答）は、図 3 の通り「面倒くさそう」「危険そう」が上位となっている。

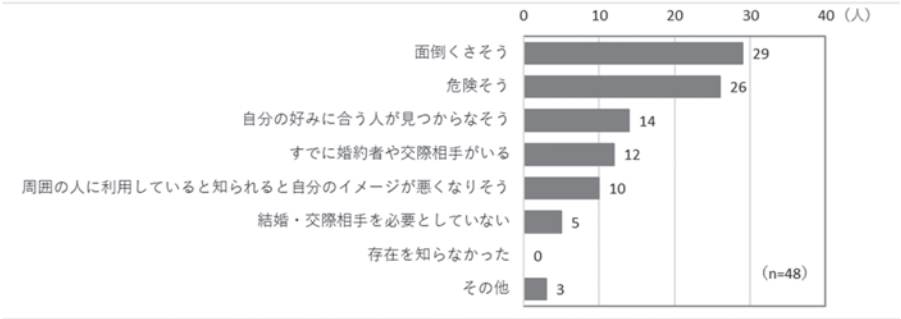

図 3　マッチングアプリを利用したことがない理由

(3) 相手のプロフィールで重視すること

本調査では、Pairs を基に、with、タップル、Omiai も参考にして選んだプロフィール

項目について、相手を探す際にどの程度重視するかを4段階で尋ねた。なお、利用したマッチングアプリにその項目がなかった場合は「項目なし」を選択してもらった（回答数が少ないため参考値として掲載する）。

その結果、男女とも「年齢」「居住地」「プロフィール写真」「自己紹介文」「好きなこと・趣味」について「重視する」＋「まあ重視する」が7割を超え、重視度が高かった（図4）。一方、男女とも「出身地」「血液型」「兄弟姉妹」は「さほど重視しない」＋「重視しない」が7割を超え、重視度が低かった。

男性の方が女性に比べ重視度が高い傾向のある項目は「お酒」で、「重視する」と「まあ重視する」を合わせた割合は男性71.4%、女性42.1%であった。

女性の方が男性に比べ重視度が高い傾向にある項目は「身長」「性格・タイプ」「社交性」「同居人」「職業・職種」「年収」で、集計結果は図5の通りである。

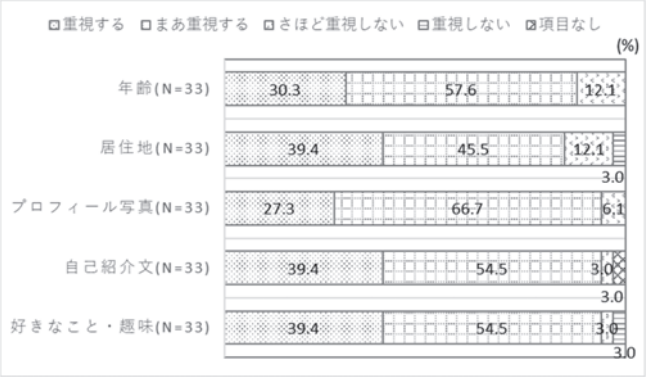

図4　男女とも重視度が高いプロフィール項目

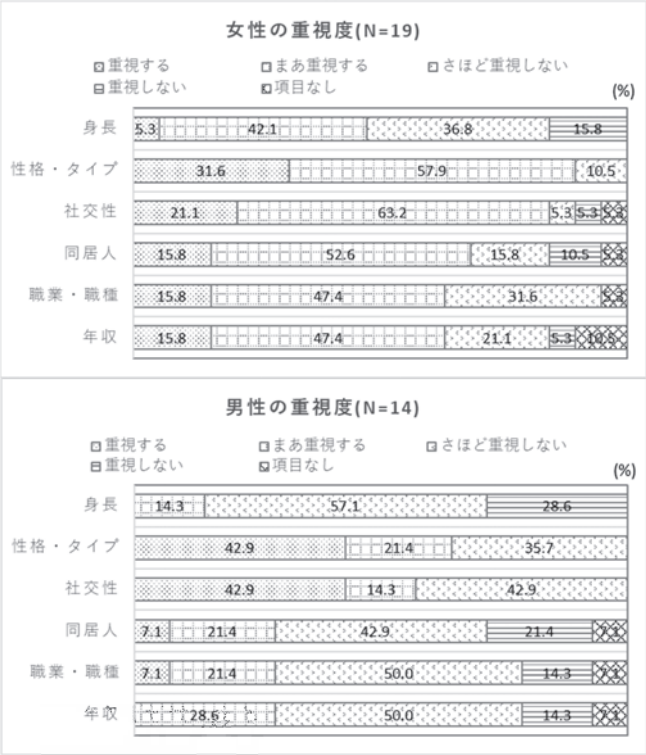

図5　男女ごとの重視度が高い傾向のあるプロフィール項目

Ⅴ　インタビューによる調査

1．　調査目的

アンケートによる調査結果について考察を深めるため、マッチングアプリ利用経験者に、アプリの利用方法やプロフィールの見方について具体的に質問する。

2．　調査の概要

(1)　対象者：マッチングアプリを利用したことがある男女4名

(2)　調査方法：機縁法により回答者を募り、半構造化面接（オンライン）を実施

(3)　調査時期：2022年2月～3月

３．　調査結果

(1)　回答者の属性

インタビューに回答していただいた４名のプロフィールは表６の通りであった。

表６　回答者の属性

	Ａさん	Ｂさん	Ｃさん	Ｄさん
性別	女性	女性	男性	男性
年代	20代後半	20代後半	20代後半	20代後半
よく利用していたアプリ	with	omiai	with	pairs

(2)マッチングアプリの利用方法

普段、マッチングアプリをどのように利用していたか尋ねると、４名からそれぞれ次のような回答が得られた。（なお以下、回答者の発言は紙幅の都合上、抜粋および一部省略して掲載する。）

A：*一応最初はさ、自分のチョー理想の条件で検索したけど、結局ホントかわかんないじゃん。その情報にあまり信用置いてないから。あんなの自分で書き込めるじゃん。やたら年収高い人は怪しいって思う。（中略）100“いいね”とか来るから、それでまず具合悪くなるじゃん。それをサーッて見てるだけでお腹一杯なるのよ。で、まあ気持ち悪い人以外、話してみてもいいくらいの人は返す（マッチングする）。*
B：*使い始めた時は自分で検索して、この人いいな～みたいな。でも見るだけだったかもしれない。自分から“いいね”は押さなくて、ああこういう人がいるんだ、みたいな使い方をしてて。（中略）“いいね”付いたらその人どんな人やろ？って見る感じだったかな。*
C：*年齢とか、検索条件を絞るみたいな使い方はしてました。おすすめとかはあんまり使ってなくて。でもお金払ってアプリ使ってた時は、1日10人おすすめ“いいね”ができるっていうのがあったんですけど、それは使ってたりしました。それで、この人いいなって思う人がいたらメッセージやりとりして。*
D：*無料で一日あたり“いいね”送れる回数が決まってるのね。それは（上限まで）やってた。それ（おすすめ機能で表示された人）プラス検索していいなって思った子に“いいね”送るって感じ。*

さらに、男性のＣ、Ｄさんに「“いいね”を押す相手は厳選して選んでいたのか」を尋ねると、次のような回答が得られた。

C：*状況によりました。“いいね”がものすごい余ってて、あれってサブスクみたいにお金払うやつなんで、期限が迫ってたら数打ちゃ当たるみたいな感じでぼこぼこ“いいね”押してました。で、逆に期限に余裕ある時はかなり厳選してやってましたね。*
D：*結構ぱっと見だったかも。数打ちゃ当たる方式だったかな。最低限の検索をして合致してそうな人で、“いいね”送るみたいな。*

またＢさんに自分から“いいね”を押さない理由を尋ねると、「メッセージのやりとりがめんどくさかった」ことを前提とし、次のような回答が得られた。

B：*こっちから自発的にやるのはめんどくさいけど、向こうから言ってくれたらやってもいいよ、みたいな、そういう感じだったのよね。*

以上から、女性のＡ、Ｂさんは自分から相手を検索したのは利用当初だけで、“いいね”を押すことはせず、“いいね”を押してきた男性のプロフィールを見てマッチングするかどうか判断していたことが共通していた。また、Ａさんは大量に送られる“いいね”に対して、Ｂさんはマッチング後のメッセージのやりとりに対して負担を感じており、いずれも受け身姿勢で利用していたことが分かった。一方、男性のＣ、Ｄさんは希望する条件に合う相手を検索しており、自分から積極的に“いいね”を押していた。これには、料金を支払っていること、使用できる“いいね”数の上限や使用期限があることが影響していた。そのため「数打ちゃ当たる」と思って相手をあまり厳選せず、たくさん“いいね”を押す場合もあったことが分かった。

(3)プロフィールの見方

本調査では、回答者が利用していた実際のマッチングアプリのプロフィール項目とその選択肢の一覧表（調査者作成）を提示しながら、具体的にどのようにプロフィールを見ていたかについて回答していただいた。まず、アンケートによる調査で男女とも重視度が高かった「年齢」「居住地」「プロフィール写真」「自己紹介文」「好きなこと・趣味」につい

ての回答の概要を下記に掲載する。

「年齢」は４人ともよく見ており、次のような回答が得られた。

A：気にする。年下の（許容する）幅は狭いかも。あと年上も、昔は全然良かったんだけど、今は10歳上なんて無理。だから、年々、OKな年齢幅が狭まってきてる。（条件は）32歳くらいに設定してたけど、実際、30代の人とメッセージやりとりするとキツいって思う。絵文字とか言葉遣いがおじさんっぽい。
B：私は年上の人が良かったから、年上の人だったらとりあえず大丈夫だけど、年上すぎ、40代とかはちょっとなーとは思ってたかな。
C：かなりチェックします。設定できる一番下が18歳ですよね。18歳から29、最後の方で使ってた時は30、31歳も含めたりしました。
D：見てた。同い年くらいか、プラマイ2とか3（歳）とか。

「居住地」も４人ともよく見ており、遠方の人とも出会えるマッチングアプリでは会いに行ける範囲かどうかが重視されていることが分かった。

「プロフィール写真」も４人とも見ており、次のような回答が得られた。いずれも外見が特に自分の好みかどうかというよりは、写真から人柄の印象を感じたり、ある程度信頼できる人かどうかの判断材料にしている傾向があるようだった。

A：重視する。見た目に性格がある程度表れる。さらにどんな写真を使うかというところにも、その人柄が出る。印象が良いのは、他人に撮ってもらったもの。複数人が写る場合、プライバシー保護に気をつけているか。印象悪いのは、マスクばかり、加工、自撮り、本物かどうか疑わしいほどの写りがいいもの、ぼかしが強い、どアップもしくは引きすぎ。
B：顔写真がバンドマンみたいな写り方してたらないなって思う。ちょっと髪の毛で顔が見えないみたいなんあるやん、たまに。（中略）友達が撮ったっぽい写真とかは、ああ友達いるんだって思うから印象いいよね。（中略）でもねー、生理的に厳しい以外ならOKしてた。自分のタイプじゃなくても。
C：チェックしてました。よほど変な人そうだなって感じがしなければ気にしてませんでした。写真ない人もいたんですけど、この人タイプそう、話せそうみたいな人は、全部総合的に見て決めてました。
D：よく見てた。少なくとも顔写真載せてる人ってレベルで見てた。（中略）完全に盛ってるなって感じじゃなかったら（いい）。

「自己紹介文」については次のような回答が得られ、印象を左右する要素として見られていることが分かった。

A：私は書いてなくてもいい派。やたらセールスのように饒舌に書いてあるとキモって思う。書き慣れてんなみたいな。あと、文章変なやついるじゃん（中略）一応見るけどいっそ潔く書いてない方がいい。
B：真剣です、とか将来を見据えて、とか書いてると印象いいかな。ウケ狙いみたいなこと書いてると引いちゃうかな。あと、顔文字使ってる人嫌いなんよね。
C：定型文使っててもそんなに気にしないというか、よほど変なこと書いてたりすると、この人は見送りだなって思いますけど、ある程度埋まってれば気にしなかったかなと思います。
D：重要視はする。文章がちゃんと書いてあるかは確認してたかな。印象いいのは趣味や好みのタイプ、アプリやってる背景が書いてる。印象悪いのは、二、三文しか書いてない場合。

「好きなこと・趣味」（with利用者には「好みカード」という、趣味や価値観を表示する機能について尋ねた）は今回の回答者には自分と同じ趣味の相手をわざわざ探していた人はおらず、相手を知る情報の一つとして見ている傾向があった。またＣさんはネットワークビジネス対策に利用していた。

A：結婚観とか選んでる人みると、そういう気持ち（結婚願望）強い人なのか、趣味のことばっかりだったら趣味めっちゃ大事にしてる人なんだな、とか、好みが一緒かって見るよりはその人の行動とか思考の傾向を見る。（中略）私、趣味っていう趣味そんなにないし。一緒の趣味で語れるとかは見てないかな。
B：ここは情報として見てただけかもしれない。ここで、うわちょっとってなることはなかったかな。趣味とかも、好きなことすればいいやんって私が思うタイプだから。特に重視してなかったかも。
C：その人を知る判断材料として見てました。（中略）かなり重視して見てたのは、ネットワークビジネスお断りとか、それ貼ってる人は見てました。（中略）同じもの好きなら話合うかもとか、あとは、マイナーな趣味好きな人見つけると、あ！これ知ってるなら絶対話合うかも！という気持ちになったりとか。
D：これは見てなかった。趣味が合うかなーくらいの参考値。

次に、アンケートによる調査結果で女性の重視度が高い傾向がみられた「身長」「性格・タイプ」「社交性」「同居人」「職業・職種」「年収」について、マッチングアプリ上でどのように見ていたか、女性のＡ、Ｂさんの回答の概要を中心に下記に掲載する。

「身長」はＡ、Ｂさんともに見ており、Ａさんは「170センチあってほしい」Ｂさんは

「自分より 10cm とか高い」と希望を回答していた。

「性格・タイプ」「社交性」は with に無い項目のため女性ではＢさんにのみ質問し、「性格・タイプ」については「“誠実”“几帳面”がすごいいい人だなって、見た時に“いいね”するポイントにしてた」、「社交性」については「“少人数”と“一人が好き”は印象いいなって感じがしてて、“大人数が好き”と“すぐに仲良くなる”は、悪くないけど私と仲良くなるタイプじゃないなって思う」という回答が得られた。

「同居人」については、Ａ、Ｂさんは次のように回答し、自立した相手を希望していることが分かった。

Ａ：実家出て一人暮らししてほしい願望はある。「ルームシェア」とか書いてる人は感覚違うなって。
Ｂ：親と同居は嫌だなって思ってた（中略）自立できてないんだって。

なお、Ｃ、Ｄさんは“ルームシェア”“友達と一緒”だとネットワークビジネス目的の利用者が多いため注意していた旨を回答していた。

「職業・職種」については、Ａ、Ｂさんは次のように回答し、将来を考えて経済や生活の面での安定を意識している傾向がみられた。また、Ａさんは相手の人柄を想像する項目としても見ていた。

Ａ：*めっちゃ見る。同業者は嫌かな。あと「経営者・役員」って真実かどうか分かんないし、真実だったとしても、私と合わないなって思う。協力するとか苦手な人かなって思っちゃうから。結婚してからのことも考えると、自衛隊とかも嫌かな。公務員はまあまあ。金融は結構印象いいかな。*
Ｂ：*見てた。ホワイトカラーっぽくない、会社員っぽくないお仕事だとちょっと、いまいちかなって判断材料にしてた。（中略）不安定っていうか大丈夫かなっていうのがあったから、雇われてるような職業じゃない人は不安だから。（他の）条件が良かったら検討したと思うけど。*

「年収」については、Ａ、Ｂさんは次のように回答し、こちらも「職業・職種」同様、将来を考えて経済や生活の面での安定を意識してプロフィールを見ていたことが分かった。またこれもＡさんは相手の人柄を見定める項目としても見ていたことが分かった。

Ａ：*見るけど、どこまでホントかなっていう気持ちで見てる。書いてない人は自信がないのかなって思う。印象が一番いいラインは“600 万円 - 800 万円”。300、400 万円だと自分と同じくらいかなって思うけど、300、200 未満だとちょっと…って感じだし、何千万とかいっちゃうと住む世界が違うなって思うし、ホントかって思うし。（中略）野心をもって金がっぽがっぽみたいなイメージが（収入が高すぎる人には）あるのね。私はお金もほしいけど、仕事第一より家庭第一にしてくれる人がいいから。*
Ｂ：*見てた。300 万未満はいいね押さなかったかな、とりあえず。300 万以上 500 万未満は他の条件を見ながら考えるって感じ。500 万以上で職業がホワイトカラーぽかったら全然いいねしてたかな。*

また、Ａ、Ｂさんになぜその年収額を理想としているのか追加で質問すると、次のように回答していた。

Ａ：*自分の 2 倍も稼げてたらめちゃめちゃ助かるなーって思って。世帯年収 1000 万近くいけたらかなり余裕持てるし、産休育休もしっかり取れそうだなーって思ったから。稼げる人がいいけど、かといって家事育児丸投げしてくるやつは許せない。（共働きで）稼ぎも家事育児も全部一緒にできる人がいい。*
Ｂ：*自分よりちょっと多いくらいってのと、稼ぎすぎてる相手やと俺が稼いでる！って言われそうで嫌やからお互い同じくらいの収入が理想やな～て思ったから。共働きが前提なんやけどやっぱり女である以上子育てとかで仕事から離れる期間が発生するって考えたときに、俺が食べさせてるとか思われたら嫌やなって思ってて…。もし自分と同じくらい稼いでる人ならそんなこと言わんかな～とか、言われても仕事復帰したら大して変わりませんが？て言えるかなって思って。*

なお、「職業・職種」「年収」に対してＣ、Ｄさんからは経済や生活の面での安定を意識した発言はなく、これもネットワークビジネスに注意するために見ていただけだった。

Ⅵ　考察

(1) マッチングアプリの利用状況

アンケートによる調査結果から、マッチングアプリは現代の若者の中で有力な恋活・婚活手段として利用されていることが分かった。

一方、非利用経験者には「面倒くさそう」「危険そう」などの意識が持たれていることも判明した。インタビューでは、実際に利用経験者から「メッセージのやりとりがめんどくさかった」という意見が聞かれ、またネットワークビジネスや勧誘など危険が潜んでいるため注意して利用している様子も窺われた。こうした点は改善していくべきである。

またインタビューによる調査結果からは、料金を支払っている男性が積極的に相手を見つける行動をして“いいね”を送り、女性はそれを選ぶ立場になっている構造が見えた。山田・白河(2008)は女性に声がかけられない消極的な男性が増えていることを指摘しており本調査の結果とは反するが、マッチングアプリには料金を払って登録している時点である程度積極的な男性が集まってきていると考えることもできる。ただし、Bさんから「どういう流れで「会いましょう」ってなるのかよく分かんなくてめんどくさくなっちゃう。ずっとメッセージだけのやりとりになる」という発言も得られていること、MMD研究所(2020)の調査においてマッチングアプリを使って会った人とは「実際に会ってみたが、それ以降はなにもない」という回答が最多となったこと等から、“いいね”には積極的でもマッチング後の行動は消極的な男性も多いことが推測される。山田・白河(2008:87)は「今や、最初のひと声は女性がかけないといけない。そうしないと、出会いも成立しないし、その先もない」と述べているが、女性たちもさらに積極的にならなければ、マッチングアプリでの出会いの先にはつながらないのかもしれない。

(2)相手のプロフィールで重視すること・プロフィールの見方

アンケートによる調査結果では、プロフィール項目の「年齢」「居住地」「プロフィール写真」「自己紹介文」「好きなこと・趣味」の重視度が男女ともに高かった。「年齢」「居住地」は多様な人と出会えるマッチングアプリでは自分と近い年齢、会いに行ける場所にいる人を重視するのは当然と考えられる。逆に、今回のインタビューの回答者にはいなかったが、友人の紹介等では出会えない年の離れた相手と出会いたい人にとってもマッチングアプリは有益であろう。「プロフィール写真」「自己紹介文」「好きなこと・趣味」は量的には重視度が高いとしても、インタビューの回答をみると、とりわけ要求水準が高いわけではなく、生理的に無理でないか、関わっても危険な人でないか、といった基準で見られている傾向があった。容姿に自信がない人でも相手が不快に感じないようなプロフィール写真や自己紹介文を心がけることでマッチング率は向上すると思われる。

また、女性では男性に比べ「同居人」「職業・職種」「年収」などの項目も重視度が高い傾向がみられた。これにはインタビューでも女性2名から、自立しているかどうか、経済的に安定しているかどうか考慮している、といった将来の結婚を意識した発言があり、まず恋人として交際するにしても結婚も意識していることが分かった。山田(2010:36)は結婚可能性を高めるために「男女とも結婚後の共働きを覚悟し」「結婚相手の男性に期待する水準を引き下げることが必要」であり、「そのためには、結婚、出産後も女性が働き続けられるような社会状況を政府などが整えることは必要」「現行の社会保障制度では、正社員の共働きに有利で、非正規雇用者は社会保障制度からほとんど恩恵を受けられない」と述べている。しかし、本研究でインタビューした女性は2名とも正規に雇用され安定した収入を得ており、すでに結婚後の共働きも見据えているが、自分と同程度以上の安定した収入の男性を希望していた。そして、その理由としては産休育休取得時の生活の安定の

他、家事・育児や夫との協調性も含まれており、高収入すぎても嫌だという発言もあった。女性が妊娠出産のために仕事を休むのはやむを得ないことであり、その間には夫の稼ぎ又は十分な貯蓄が必要である。また、子育てにはお金だけでなく世話や教育に使う時間、精神的な余裕も必要になって来る。ゆとり世代が結婚・子育てをする時期となっている今、単に経済的な面だけでなく生活面での質的な安定を求めている人も増えているのかもしれない。

そして最後に、インタビューによる調査からは、危険な面もあるマッチングアプリの中で利用者たちは信頼でき自分と相性の良い相手と出会うべく、単なる記載事項だけでなくその裏側にある意図や透けて見える人物像を読み取ろうと試行錯誤しながらプロフィールを見ていることが分かった点も記しておきたい。

Ⅶ　今後の課題

本研究ではまず調査のサンプル数を集めることができず、詳細な分析が困難であった。サンプル数を増やし、本研究の妥当性や再現性を検証し、詳細な統計的分析も実施することが望まれる。

また、本研究では出会い場面に着目したが、その結果からはマッチング後に交際に至るまでの課題もあることが明らかになった。さらには、マッチングアプリを利用する上での心理的な負担感、男性の経済力を重視する女性の意識といった課題も見えてきた。これらの課題についても心理学的あるいは経済学的なアプローチからの研究が進展していくことが望まれる。

引用文献

MMD研究所、2020「2020年マッチングサービス・アプリの利用実態調査」(2020年11月28日取得、https://mmdlabo.jp/investigation/detail_1887.html)
株式会社エウレカ、2019「日本の恋愛・結婚に関する全国意識調査」(2020年12月5日取得、https://eure.jp/challenge/)
小澤千穂子・山田昌弘、2010「結婚仲人の語りから見た「婚活」」『「婚活」現象の社会学』65-80、東洋経済新報社
国立社会保障・人口問題研究所、2017「第15回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査 独身者調査の結果概要」国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (2020年12月2日取得、https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp)
小林千緩・森川三歩子、2017「【第33回大会若手部会シンポジウム記録】テーマ：若者の恋愛・結婚観～2016～」『現代行動学会誌』33：66-67
山田昌弘・白河桃子、2008『「婚活」時代』ディスカヴァー・トゥエンティワン
山田昌弘、2010「「婚活」現象の裏側」『「婚活」現象の社会学』17-41、東洋経済新報社

参考アプリ

With(2022年3月29日取得、https://with.is/welcome)
Omiai(2022年3月29日取得、https://fb.omiai-jp.com/)
タップル(2022年3月29日取得、https://tapple.me/)
Pairs(2022年3月29日取得、https://www.pairs.lv/)